

食品ロスから考える 将来

城北高校 201HR
阿部希美 大久保美月
河野朱音 原田菜央

期間

目的

新型コロナウイルスの流行により、給食やイベントが中止になり食品廃棄量が増えている中、若い世代へ伝えることで意識を変える

1 貧困を
なくそう



食品ロスとその現状について

食品ロスとは

まだ食べられるのに廃棄される食品のこと

日本の現状

年間2,531万 t の食品廃棄物などが出され、
そのうち600万 t が食品ロス

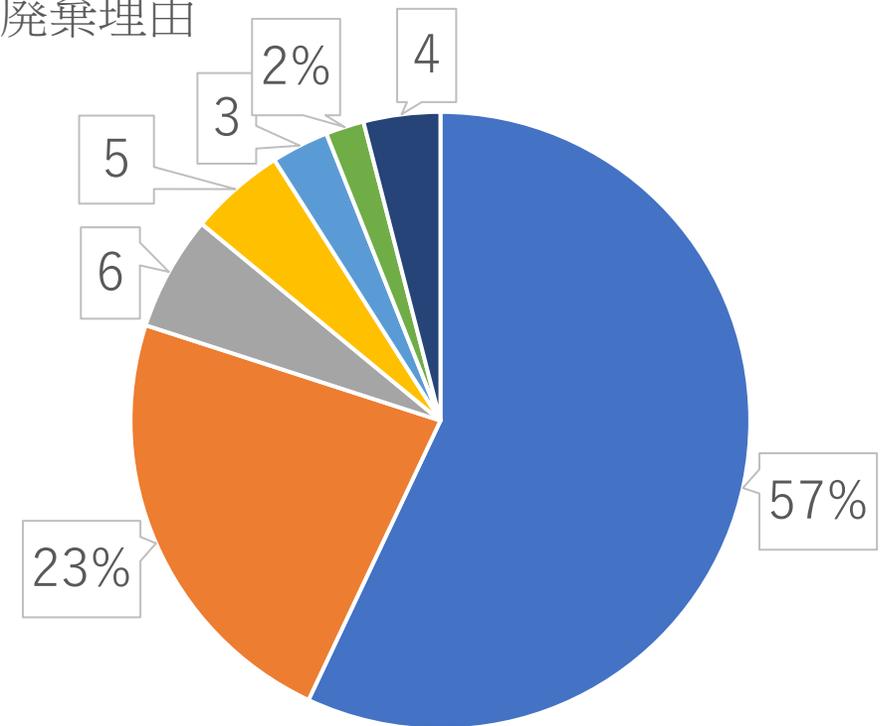
徳島の現状

1世帯当たりの食品ロス量 . . . **1.182 g**
1世帯当たりの食品ロス金額 . . . **168.3円**

食品ロスの理由

- ・ 食べ残し
- ・ 貰い物
- ・ 冷蔵庫の中を確認せず買い物し余った。
- ・ 調理方がわからない。 . . .etc

食品廃棄理由



■ 食べ残し ■ 傷んでいた ■ 賞味期限切れ
■ 消費期限切れ ■ おいしくない ■ その他

アクションについて

《授業で使用した資料》

○内容

廃棄食品への取り組みを知らない人が多い若い世代に伝えることで廃棄食品は減るのではないかという仮説を立て、以下のような活動を行った。

- ・城西中学校へデータを送り、授業をしてもらった。

(仮説を踏まえ、廃棄食品を活用する方法として調理法や、コンポスト化などを紹介した。)

- ・校内アンケートの実施

城北高校の1・2年生を対象に行った。

④ご飯をよく残すか

基本残さない・・・72%，時々残す・・・26%，よく残す・・・2%

④徳島の食品ロスに対する取り組みを知ってるか

知っている・・・4%，聞いたことがある・・・9%，知らない・・・87%



コンポスト



生ゴミ処理機

考察・結論

- ・食品ロスに対する具体的な対策方法や身の回りの取り組み、などについて知らない人が多いことがわかった。
このことから、“食品ロス削減”というよりは“もったいない”という気持ちを持つことが食品ロスを減らす根本的な考え方になると考えた。

まとめ

- ・食品ロス削減のために私達にできること
廃棄食品の活用(調理・肥料), フードバンク, フードドライブへの協力
地産地消, エシカル消費 ...など様々である。
特別なことと思わず、もったいないという気持ちをもち少しでも何か行動することが必要。